



休耕田で水生生物を探す児童

## 在来種見つけ 環境保全確認

栃木・富屋西部ホタル  
愛護会田んぼ調査

【栃木・うつのみや】富屋西部ホタル愛護会は8月上旬、宇都宮市田中地区のホタル保全地の水路

と休耕田で、地元の小学生を対象に、田んぼ周りの生き物調査を行った。

富屋小学校の3、6年生31人と保護者、教員、同愛護会員ら計55人が参加。水路の上・中・下流と上流先の休耕田で、魚捕り網を使って水生昆虫や魚を捕獲した。

この活動は、身近な生き物を知り、自然環境を守るのが目的。捕獲した生物は富屋地区市民センターに運び、アドバイザーの西部光世さんが同定・解説した。

捕獲したのは、「レッドデータブックとちぎ」によると、上流ではホトケドジョウ（絶滅危惧Ⅱ類Bランク）、サワガニ、

カワニナ。中流はアブラハヤ、イモリ、トウキョウダルマガエル。下流はアブラハヤ、シマドジョウ（準絶滅危惧種Cランク）、タガメ（要注目）など。各流域で、たくさんの種類の水辺の生物を捕獲した。

西部さんは「水路には、昔からの在来種や珍しい生き物が生息している。上流から下流まで、きれいな水で豊かな自然が保たれていた」と講評した。

参加した児童らは「カニとドジョウとカエルが捕れた。珍しい生き物が捕れて、とてもうれしかった」と笑顔で話していた。